

園長だより

NO41

災害への対応

台風の通過により、千葉県には甚大な被害がでました。電気、水道、ライフラインの遮断、家屋の崩壊など長期的な復興への取り組みになっています。

今回の災害から保育園の緊急対応などの必要性を考える自治体も出てきています。

災害時も保育園は開園を余儀なくされています。それは認可保育園の災害時の取り扱いを県で定めていないからです。小学校は休校又は登校時間の繰り下げで対応しても保育園は平常開園です。電車が止まろうが風速 50m 以上の風が吹こうが開園するのが前提になっています。 今後は甚大な被害がでると予測された時、園児の安全を確保するために認可保育園でも柔軟に対応できるようになしくみをつくる必要があります。

県は現在、被災地域の対応に全力を注いでいますので復興への方向性が出てくれば、災害時の保育園の在り方を考えていただけると考えています。

各施設に任せた判断

昨年 7 月に起こった西日本豪雨ではやはり曖昧(あいまい)な判断基準が現場を混乱させていた。この豪雨では保育園などの保育施設から避難所に移動するケースがあいついで起こった。大雨などの災害での休園の判断基準がなく自治体と相談して判断していた。

専門家からは国がしっかりした指針をつくり保護者へ周知することを指摘している。

西日本の集中豪雨、東日本ではピンとこないのであろうか。行政の対応は伝わってこない。

西日本豪雨では子どもの安全を第 1 に考える施設の管理者は苦渋の決断を余儀なくされた。しっかりと指針が示されていればさまざまな決断が迅速にされ、子ども達の危険へのリスクが軽減されていたはずである。

保育所を所轄する厚労省も休園は園や自治体に判断をゆだねる姿勢を示している。

ある調査で非常時における保育施設等の迅速かつ適切な臨時休園の判断推進の調査では臨時休園の基準を設定していない保育園が 70% 以上にものぼった、当園でも臨時休園の判断基準の設定はない。



判断基準を設定できない理由はどこに

- 調査では判断基準を設定しない理由には
- ① 乳幼児を預けたいとする保護者がいる限り、臨時休園を行うべきではない
 - ② 休園するという発想がなかった。
 - ③ 制度上できないと思っていた。
 - ④ 保護者のクレームが気になりにくいなどの理由があげられた。

どの理由も保育園という特性上、休んではならぬものだというものであった。

子ども達の安全は 2 の次、保育園は是が非でも開園するという観念が根強いわけです。

国は様々な施策を打ち出し、子どもファーストを打ち出しているが子どもの安全をどう考えているのか、懸念を抱かざる得ないのは私だけでしょうか、

私の心臓はのみの心臓です。心配ごとがあると居ても立っても居られない性分である。

台風がくるとなれば、ほぼ毎回、保育園に泊まり備えます。何もなかったときは安堵します。

ただ今回の台風は尋常ではなかった。夜中に何度も市の防災放送が入り、うねりを上げた風、大雨だけでなく竜巻や突風も、保育園周辺の冠水もある。様々な災害が重なっていた、前日から計画的な鉄道の運休、ほとんどの家庭が仕事に行けない状態である。でも仕事に行かなくてはならない方もいる。先にあげたように保育を必要とする家庭があるから開園する。これは保育園であれば当たり前のこと、臨時休園の判断基準を持たない施設なら何とか開園できるようにしなければなりません。

いくつもの心配

自然災害では登園する方の道中が心配です。風で吹き飛ばされ転倒しないか、車での事故、吹き飛んだ看板の衝突、なによりも子ども達の身の安全を心配しました。メディアでも外出は避けて下さい。強固な建物の中にいて下さい。啓発が続けば尚更、心配の念は増大します。

厚労省の臨時休園についての見解は

保育施設などの役割が家庭において必要な保育を受けがたい乳幼児を預かることであることを鑑みると、臨時休園の判断は教育施設よりも慎重に行わなければならないものの、保育施設などであっても乳幼児の安全の確保のため、施設長、設置者等の判断で臨時休園を行うことは妨げられないとしている。

台風や大雨を伴い前線の接近や感染症の拡大など予測できるものについて非常事態が起こる前に対応できることとなりますがなかなか一施設だけでは動けそうにありません。

これからの課題は

年々、自然災害の発生頻度が増し、大きな被害が出る傾向にあります。各施設が非常事態に対応するための臨時休園（登降園時間の変更）の実施基準を設定しておく必要があると考えます。

昨年の西日本豪雨においても臨時休園に踏み切れず乳幼児を受け入れ、保育施設では安全確保が迅速に行われなかった例もあります。

大きなことが起こってからでは遅いのです。防災計画や感染症へのマニュアルは整備されているものの、もう一度、自然災害への対策を子ども達の安全を第 1 に考え、考えていかなくてはなりません。今後は一施設だけでなく地域の保育施設と連携し行政と共に対応していきたいと考えます。

(園長 廣部 信隆)